

令和8年3月

令和7年度とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	認定こども園 世田谷区立多聞幼稚園
所在地	世田谷区三宿2-25-9

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「なんだろう！どうして？ふしぎだね！～心が動く出会いの場 園庭環境の工夫～」

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子供たちの興味関心、園の特色など)

本園では、数年前に園舎の改築を進める過程で自然環境を減らさざるを得ず、その結果、園庭の自然環境の構成が不十分であると感じていた。また、幼児の課題として、「生き物や植物に興味や関心をもちやすいが、持続しにくい」、「自然物に対する興味・関心に個人差がある」という点が挙げられる。園庭環境の改善や工夫を通して、人や自然物への興味・関心を深め、探究したり、感動したりするなど、心を動かす経験をしてほしいという願いのもと、本テーマを設定した。

2. 活動スケジュール

- ① プランターでの植物栽培…4月から随時
- ② 園庭遊具の見直し、改善…4月から随時
- ③ 保育室、廊下の水槽を新調、玄関に新しく水槽を設置…5月
- ④ ビオトープの設置…6月中旬～7月末
 - 6月中旬 外部講師を招いた最初の活動
 - 6月下旬～7月上旬 穴掘り
 - 7月上旬 園の近くの川を散策
 - 7月上旬 アクアリウムショップへ行き、水草を購入
 - 7月中旬 池を設置、水草を植える
 - 7月下旬以降 観察、世話
- ⑤ アナーキースペース（秘密基地的スペース）の設置…9月末
- ⑥ 八重桜の植樹…10月末
- ⑦ ミズコンポストの設置…10月中旬

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・水槽、水槽用ライト… 各部屋、廊下、玄関に水槽を設置
- ・ビオトープ用プラスチック池… メダカ池の容器に使用
- ・水草、石… ビオトープ作りに使用
- ・アクションカメラ3台… 日々の活動の記録、研究会での振り返りに使用
- ・デジタル顕微鏡… 幼児が観察したいものを自由に観察（保育室前の廊下に設置）
- ・プロジェクター、スクリーン… 研究会、保護者会等で活動を検討・紹介する際に使用
- ・リアカー… バイオネストを作る際に落ち葉等の運搬に使用

4. 探究活動の実績

<活動の内容>

<メダカ池（ビオトープ）づくり>

進級した新しい保育室で飼育しているメダカについて、メダカ博士（地域のアクアリウムショップの方）から話を聞く中で、本当は狭い水槽ではなく広い池で暮らす方が幸せなのだと知り、ビオトープづくりが始まった。園庭のどこに池を作ったらよいか相談し、数日かけて分担して穴掘りを進めていった。また、近所の川に散歩に出かけて水辺の環境をじっくり観察したり、池作りに必要な水草や石を自分たちで買いに行ったりした。そして、メダカ博士と一緒に池の容器を穴に設置したり、水草を植えたりし、1学期末に、保育室からメダカ池へメダカを移した。長期的な活動なため、日々話し合いの時間や取り組みの発表の時間を学級で設けていき、「園庭にメダカ池を作る」という大きな目的に向かってみんなで取り組む意識がもてるように進めていった。

＜活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり＞

新しい保育室になって出会ったメダカに興味をもち、代わる代わる水槽の前で観察していた。虫眼鏡を提示することで、よりじっくりと観察したり友達と気付いたことを話したりする姿が見られた。教師はその様子を受け、より透明度の高い虫眼鏡を用意し、幼児の発見やつぶやきに共感していった。

メダカ博士が来ると、「オスとメスってどう違うの？」「うちはするの？」「メダカも寝るの？」など素朴な疑問をそれぞれの幼児が質問し、その場で答えてもらうことでメダカの生態への関心が高まっていた。中でも、「水槽だと狭い、広い池で暮らす方が幸せ」という話を聞くと、すぐに「じゃあ幼稚園に池を作ろうよ！」「どこにしようか？」などと意見を出し合い、主体的に活動を進めていこうとする姿が見られた。

穴掘りでは地面の土が固く、数日かけてやりたい幼児から掘り進めていった。何か活動をした日は学級で報告の時間を設けていったことで、「じゃあ明日は私も掘りにいくよ！」「雨が降ったら土が柔らかくなるんじゃない？」「あともうちょっとでできそうかも」などと学級の全員が意識をもって話し合う姿が日々見られるようになった。また、自分たちだけでは時間がかかると分かり、「自分たちの力で作りたい」という気持ちと葛藤しつつも、活動に興味をもった他学年の幼児に手伝いを頼み、やってほしいことを言葉や行動で伝える姿が見られた。穴が出来上がると、「3歳の子たち、穴に落ちないかな？」「看板作った方がいいかも」などという声も挙がり、長期の活動を通して、子どもたちの認識が「自分たちの池」から「園のみんなの池」に変わっていく様子が伺えた。

メダカ博士のアクアリウムショップに水草や石を子どもたちと買いに行った際には、今まで歩いたことのない長距離の道だったが、目的をもって意欲的に歩く姿から充実感や満足感が感じられた。また、一人一人が自分でお金を渡して買い物をする機会も初めてだったため、とても思い入れのある大事な水草となった。買い物の際、たくさんの種類からそれぞれ好きな水草を選んでいったが、自分の好みではなく、「メダカが好きな草はどれですか？」と自分から博士に聞く幼児もあり、池作りへの強い意識が感じられた。

池が完成して少しすると、3歳児が砂を入れてしまうという出来事が起こり、見かけた幼児から学級全体に共有する機会をもった。3歳児の行動に驚きつつも、それぞれの幼児が考えている様子があったため教師はその様子を見守っていると、「早く看板を作った方がいい！」と幼児から意見が出てきた。3歳児の行動を非難するのではなく、どうしたら分かってくれるか、という他者視点に立って自分たちができることを考える姿に、子どもたちの成長を感じることができた。

池が完成してからも遊びの中でメダカの様子を観察しに行っており、「侵入者がいた！」「ヤゴだよ！トンボになるの」「メダカのことを食べちゃうんだよ、退治しないと！」などと発見したことを友達や教師に発信したり、学級で共有したりし、愛着をもって関わる姿が見られた。

<活動の様子>



5. 振り返り

(振り返りによって得た保育者の気づき)

- ・幼児の発言や思いからビオトープ作りが始まり、自分たちで話し合いながら活動を進めていくことで、「困難に立ち向かう力」が培われてきたと感じた。
- ・ビオトープ作りに必要なことを考え、実際に園外に出て買い物に行ったり、数日かけて土を掘ったりすることで、幼児自身が必要感を感じながら進めていく姿が見られた。
- ・幼児が地域の方や専門家など園外の人たちと関わってつながったことで、視野が広がり、園内ではできない経験ができ、一歩踏み出す機会となった。また、教師自身も心を動かしたり、素敵だと感じる人や場に関心をもったりし、わくわくしながら新しいことにチャレンジする気持ちをもち続けることが大切であると分かった。
- ・園庭は園全体で共有しやすい場であり異年齢の交流の場となりやすい。ビオトープは園庭環境の一部として、幼児とともに設置したみんなの池となり、池が完成してからも、季節によって変化に気付けるようになった。

以上